

会 議 録

会議名 (審議会等名)		第5期第6回相模原市緑区区民会議				
事務局 (担当課)		緑区役所区政策課 電話042-775-8802(直通)				
開催日時		令和元年5月31日(金) 14時00分～15時55分				
開催場所		緑区合同庁舎 集団指導室				
出席者	委員	19人(別紙のとおり)				
	その他	0人				
	事務局	9人(緑区長、緑区副区長、緑区役所区政策課長、他6人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	2人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		<p>1 開会</p> <p>2 議題</p> <p>(1) 副会長の選任について</p> <p>(2) 緑区基本計画の答申案の作成・検討 将来像の実現に向けた施策展開の視点の検討について</p> <p>3 その他</p> <p>4 閉会</p>				

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。(は会長の発言 は委員の発言 は事務局の発言)

1 開会

牧瀬会長の司会進行により議事が進められた。

会議の成立要件を満たしている旨の報告、会議の公開、配布資料の確認を行った。また、傍聴希望者の報告を行い、傍聴を許可することとした。

2 議題

(1) 副会長の選出について

前副会長の辞職に伴い、副会長については、相模原市緑区区民会議規則第3条第2項に基づき、委員の互選により、中山委員が提案された。なお、中山委員は当日の会議を欠席していたため、事務局から中山委員に意向を確認し、承諾が得られれば就任していただくこととなった。

(2) 緑区基本計画の答申案の作成・検討 将来像の実現に向けた施策展開の視点の検討について

事務局から資料のとおり説明があった。その後、中島区長より緑区を取り巻く状況について、説明があった。

前回、会長から分野ごとの文言について、考えて欲しいとの話があったので、自分なりに考えた。区の将来像は「緑豊かな自然環境をメインとした持続可能な都市を目指す」。施策展開の視点は「緑区は目先の利便性ではなく、豊かな自然環境による豊かな人間性を追求する」「行政経験の積上げ施策ではなく、理想を描き、バックキャストで発想する施策を行う」「個人・地域・行政が行うことの役割を理解し、総合的・横断的に施策を展開する」事が必要だと考えた。また、各項目のフレーズも考えた。「生きがいの実感(子ども・教育)」「人としてフェアな対応(共生・健康)」「被災時の想定外の対応(安心・安全)」「ネット環境の充実(活力・交流)」「IT等最新技術の活用による緑区の一体化『少数の集合体』(都市経営)」というフレーズはどうかと考えた。

所属する団体名が市既存住宅リフォーム・改築推進協議会に変更になり、活動を緑区だけでなく、他区の人に緑区内の空き家を紹介し、移り住んでもらい、他区の人が住んでいた住居を活用し、市外から移住者を呼ぶ取り組みも検討している。また、現在推進している津久井地域里山体験ツアーでは、情報発信をするうえで、人の暮らし方・生き方を考えるツアーとして伝えていこうと思っている。

区の目指す姿の実現に向けた施策展開の視点について、ハード分野に偏ってい

るように感じる。高齢化率が高くなることを見込まれているので、高齢者にやさしいまちづくりが入ってもよいのではないか。

観光について、キャンプ等自然環境を求めて緑区に来る人が多いので、活用すべきである。

緑区ならではの視点が必要である。緑区の自然について、価値をもっと出していかないといけないのではないか。

人口を増やすことにスポットを当てるのではなく、持続可能な、緩やかに減少を認めるという考えもあるのではないか。

先月、別の行事で相模丘中学校の生徒が緑区の魅力や課題について討論する場へ行った。子ども達が認識している課題は大人とほぼ同じだが、子ども達が思う魅力ある生活する場所は視点が異なると思ったので、若い人の意見もあるとよいと思う。

観光は一時的に訪問するという面があるが、その地域に移住することができなくても、地域外の人が地域に頻繁に通う関係人口を促進させる考えがある。きっかけを作ることで他の市・県に住んでいる人と地域が繋がり、深く関わっていくができる事ができるので、いいのではないかと考える。しかしながら、課題となるのは交通面である。緑区の青根に行こうとすると、1日がかかりになってしまうので、交通が改善されるとよいのではないか。

豊かな自然環境で豊かな人間性を育むことができると思う。ただ単に都市化するのでなく、昔ながらのことが経験できる場所や人が必要と考える。

関係人口などの交流も必要ではあるが、実際に住んでもらわないとスーパーなどの生活施設が少なくなる。子育てを自然環境の中で行っていきたいと考えているライフスタイルの人もいると感じる。また、畑仕事など土に関わって生活している人を見ると、健康に思える。そういった緑区を魅力に思ってもらえる人に来てもらいたいと思っているが、希望している人に伝える手段が必要なので、緑区特設サイト「すもうよ緑区」を更に活用して欲しい。

緑区は都市化と自然豊かな環境が共存するまちづくりを行うとよいと思う。

相模湖・藤野地区では高校に通学する際、東京都などの都市部への通学を希望する声が多いので、東京都との調整を引き続き行って欲しい。

最近、住んで、働いて、訪れてよしというキーワードを耳にする。他と同様のことを行わず、それらの要素に更に新しい価値をつけて「緑区モデル」のまちづくりを提示していくとよいと思う。例えば、学んでよし（教養）、耕してよし（自然）、育ててよし（子育て）など。また、老いてよし（高齢化）としてシニアに優しいエリアとして考えるなど、外に対してどう示していくか考えていくことが必要である。今の若い人たちの考えは、商店がなくなってもネットスーパーがあれば問題ないという考えの人も居るので、見方を変えて伝えていくべきだと

考える。これから発展していくことを示せる「未来の田舎」を考えていけるとよいのではないか。

市の考えにコンパクトシティという考えがあると思うが、中山間地域の話し合いの中では限界集落への危機意識がある。現在も移住への取組を行なっているが、ドローンや自動運転などA I・I o Tを活用した新しい時代のまちづくりも考えるべきである。また、他県では自分で起業して在宅で仕事を行う人を呼び込んでいるところもある。地区で住む人たちの適正人口を考える視点も必要ではないか。それぞれの地域での暮らしを考えていくべきであると考えます。

8年間で何をどこに資源を使っていくか考えるべきである。これからの8年で暮らしは大きく変化すると思う。バスの便の減少も人手不足が一因であると聞いているが、A IやI o Tが活用されることで、生活も変化するかもしれないと思う。

バスなど交通手段に困っている人や地域を支援し、目に見える利便性が上がるまちづくりを行うべきである。

空き家は居場所づくりに活用し、住みよいまちづくりになるとよい。

行政の他部局等で進行している計画等を把握し、連携して推進して欲しい。

緑区に遊びに来る人に対して身近に感じてもらう工夫が必要である。まずは良い印象を持ってもらうことが重要である。自身が感じた課題として、インターネットで検索した際にまず施設が検索に出てこなかったり、行っても老朽化が目立ったり、宣伝が上手に感じられないことがある。子育て世代に来てもらうためにはイメージ戦略が必要である。インターネットの評判を見てくる人も多いので、宣伝を頑張りたい。いろいろな人が見ることによって人が集まってくると思う。

20～30歳代の経営者を見ていると、まちづくりへの参加が難しいと感じる。市青年会議所への加入数も減少傾向にある。

高齢化社会を迎えるにあたり、w i f iを整備した公園などで近未来型の公園のコミュニティを創造するのはどうか。

所属していた商店街の運営形態に課題があり、新しい取り組みができなかったため、新しい商店街のあり方について考えている。

相模原市はシビックプライドの順位が低い。順位が高い都市はUターンが多い。

石老山の頂上にトイレがないなどの課題がある。

鳥獣対策についての記載も入れるべきである。猟友会は担い手不足が発生しているが、猪などは繁殖力が強いため、地域で鳥獣被害を防ぐことが必要である。

橋本地区は人口が増加する一方で、自治会の加入率が50%を切っており、横の繋がりが希薄化しているため、地域コミュニティの強化を図っていかねばならないと感じている。

鳥獣対策については、行政も親身になっていただきたい。

里山の自然を活かし、未病の里、療養できる医療の里として活性化できないかという意見があった。

令和6年から火葬場が供用開始となるほか、リニアの工事に係る残土の問題、広域道路、小さな拠点などの話がある一方、人口減少、学校の統廃合、買い物弱者への支援など課題が多いにある。

今後の展望を考えるには交通の利便性の向上を考えるべきである。また、自然環境を活用した、キャンプ場をPRすべきと思う。

まちづくりとは何かを考え、魅力的なスポットなど戦略的にテーマを定めていかないといけないと思った。企業・個人に焦点を当てて考えると、例えば緑区なら食や研究などを始めたいと思ってもらえるようなきっかけや始めやすい取組があるとよいのではないかと考えた。始めるにあたっては、質の良いものを作っていくとよいと考えている。

頂いた意見を基に案を考えていきたいと思う。また、今後、取り組みの視点と地域の視点についても考え、掲載できるようであれば考えていくとよいと思う。

3 その他

次回会議は、令和元年6月8日(土)午前10時から開催予定との話があった。

4 閉会

相模原市緑区区民会議委員出欠席名簿

(順不同・敬称略)

区 分	氏 名	所 属 団 体 等	出欠席
まちづくり会議	安藤 和実	橋本地区まちづくり会議	出席
	大貫 勲	大沢地区まちづくり会議	出席
	大参 正人	城山地区まちづくり会議	出席
	落合 勝司	津久井地区まちづくり会議	出席
	長谷川 兌	相模湖地区まちづくり会議	出席
	宮野 善三郎	藤野地区まちづくり会議	出席
関係団体	中山 光明	相模原市自治会連合会	欠席
	今井 俊昭	社会福祉法人相模原市社会福祉協議会	出席
	中里 浩章	相模原市立小中学校PTA連絡協議会	出席
	原 正弘	相模原商工会議所	出席
	奈良 哲弥	津久井地域商工会連絡協議会	欠席
	吉野 賢治	一般社団法人 相模原市観光協会	出席
	飯塚 侑	公益社団法人 相模原青年会議所	出席
	渡邊 博明	公益社団法人 津久井青年会議所	欠席
	佐藤 鉄郎	相模原市既存住宅リフォーム・改築推進協議会	出席
	小稻 香穂	あざおね社中	出席
学識経験者	牧瀬 稔	関東学院大学	出席
	関司 直也	法政大学	欠席
区民	高橋 朋樹	公募委員	欠席
	齊藤 賢一	公募委員	出席
	池田 眞弓	公募委員	出席
民間事業者	山本 篤史	株式会社KADOKAWA	出席
	道本 晃一	相模湖リゾート株式会社	出席
	高堂 智佳	東日本旅客鉄道株式会社	出席
	中原 正貴	神奈川つくい農業協同組合	欠席

は会長、 は副会長